

白山・高山帯歩道の保護と復元

1992・3

石川県環境部

序

白山は、本県のシンボリック的存在であるばかりでなく、我が国有数の原始性の高い国立公園として位置づけられ、極めて貴重な自然地域といえる。

しかし、このような優れた自然の状況も、近年の登山利用に代表される種々のインパクトによって変容されつつある。

特に、室堂と南竜ヶ馬場をむすぶ展望歩道（高飯場南竜ヶ馬場室堂線歩道）とエコーライン（弥陀ヶ原線歩道）の二つの登山道は、白山で最も登山者に親しまれている。眺望がきき、お花畑も見られるため、多くの登山者に利用されている。近年双方の登山道とその周辺を中心として、踏み込みによる裸地化、さらには土壌侵食による歩道の拡幅や掘れこみ等の破壊が著しく、河原状と呼べるほどの現況を呈しており、現在もこの荒廃が進行しつつある。また、この登山道が流水溝化することによる水分条件の変化等が、この二つの歩道周辺の植生の変化に結びつくことも危惧されている。

本調査は、荒廃の進む展望、エコーライン両歩道及び周辺での植生の復元を図り、かつ、やや湿性な高山植物群落を保護するために、今何を実施しなければならないかを明確にし、さらにその具体的な手法を検討するということを課題とするものであり、植生や土壌等の基礎的な調査により、問題点・荒廃原因の把握に努め、その復元対策については、技術的なアプローチだけでなく、多くの県民の深い関心事として総合的に検討を進めてきたものである。

2ヶ年の調査であり、不十分な点も多く、特に極めて困難な条件下での植生復元については、その端緒についたばかりの段階であるが、この報告に対して、御批判や種々御教示を賜われれば望外の喜びとするところである。

本報告の調査研究は、県の関係機関（環境部自然保護課、白山自然保護センター、石川県林業試験場）のほか、つぎのスタッフからなる検討委員会を設け実施し、報告書のとりまとめには、白山自然保護センターがあたった（敬称略、順不同）。

金沢大学名誉教授	紘野義夫
金沢大学理学部	清水建美
白山観光協会事務局	藤原正克
金城高等学校教諭	古池博
自然公園指導員	永井竹男

自然公園指導員

中 江 実

自然公園指導員

林 正 一

また、環境庁白山国立公園管理官、長谷部稔、半田浩志、石川県農業短期大学富樫一次氏、地元白峰村役場にも種々御教示いただいた。本調査に御協力いただいた各位に深く感謝いたします。

平成4年3月

石川県環境部長 齊藤 晴彦

目 次

I 調査研究の経緯と課題	
1 調査の発端	1
2 目的と課題	3
3 検討委員会の設立と経過	
(1)検討委員会の設立	3
(2)検討委員会の概要	5
II 展望歩道、エコーラインの現況と問題点	
1 植生からみた歩道の保全	
(1)ベルトトランセクト調査	6
(2)白山高山帯歩道周辺の地形と植生配列	18
2 歩道周辺の地質	50
3 歩道の土壌断面	55
4 歩道及び周辺の荒廃について	63
III 植生の回復と登山道改善対策	
1 基本的な考え方	71
2 工法	77
あとがき	87